

## 地 域 再 生 計 画

### 1 地域再生計画の名称

旧病院施設を活用した福祉と教育の拠点による市中心部再生計画

### 2 地域再生計画の作成主体と名称

苫小牧市

### 3 地域再生計画の区域

苫小牧市の区域の一部（本幸町地区）

### 4 地域再生計画の目標

本市は、北日本最大の特定重要港湾苫小牧港を擁し、空の玄関口である新千歳空港に隣接し、陸路においては高速道路に直結しながらJRの分岐点にもなるなど人流・物流拠点として重要な役割を担っている。また、ラムサール条約の登録湿地であるウトナイ湖や樽前山のふもとに広がる森林と湖沼群など、豊かな自然に恵まれたところでもある。

このような本市において、医療の中核を担う苫小牧市立病院は、昭和21年に苫小牧町立病院として創設後、市民のみならず地域の基幹病院としてその役割を担ってきたが、病院施設の老朽化と多様化する医療ニーズに対応するため、平成18年10月に移転新築した。新病院では、最新の医療設備を備え、高度で良質な医療を提供する病院として、さらなる医療サービスの向上に努めているところである。

市立病院が移転新築したことにより、旧病院の跡地利用が最大の課題となっている。この地域は、本市の中央部中地域に位置づけられており、苫小牧駅を中心とした中心市街地や市役所などの官庁街に比較的近く、また、旧川跡地の「遊歩道」や地域住民が憩える親水空間「ふるさと海岸」に近接するなど、都市部としての利便性と潤いのある居住空間を兼ね備えた地域である。

まちづくりを進める上で、このような本市中心部の空洞化は避けなければならない、地域振興を図る観点からも公共目的で再利用することが望まれている。

一方、本市の人口は、全道の多くの自治体が減少している中、国勢調査人口において過去10年前と比較して約8千人増加しているが、年少人口は、5%減少しているとともに、1世帯当たりの人員は0.4人減少しており、少子化・核家族化が確実に進展している。そこで本市では、平成17年に「苫小牧市次世代育成支援対策推進行動計画」を策定し、地域・企業や関係機関・団体とも連携を図りながら、次世代の育成支援を推進しているところである。

また、昭和47年に開設以来、多くの高齢者に生涯学習・交流・憩いの場として利用されてきた老人福祉センターは、各種教養講座や同好会、健康相談、レクリエーション事業などを行っており、利用者は年々増加しているが、各種相談業務や健

康増進事業の場として十分に活用されていない現状に加え、併設する道営住宅の移転建替が決まり、平成21年度以降の早期に現建物全体が解体されることとなったことから、同センターの移転改築が喫緊の課題として浮上してきた。

さらに、本市の教育課題の解決や教育振興の充実のため、「苫小牧市教育研究所」の活動は、教育水準の維持向上に寄与してきたが、今日の新しい教育実践の推進や課題の解決のため、これまで教育研究所が果たしてきた機能にとどまらず、将来の展望や理想を見据えた施設の早期設置が重要課題となっている。平成14年には、教育研修センターのあるべき機能等についての基本構想を策定したが、厳しい財政状況の中、設立が見送られてきた経緯がある。

このような現状を踏まえ、旧病院施設を利用し、多世代が集い活用できる次世代の育成支援施設、老人福祉センター、教育研修センター等の複合施設として転用することにより、旧病院跡地の積極的な再利用とともに、多世代の福祉の推進と教育の充実を図っていく。

なお、この計画の実現により、次の目標達成を目指す。

(目標1) 子育て支援

・子育て教室の利用件数

現状(18年度) 1,663件、 目標(25年度) 1,800件

・乳幼児健診の受診率

現状(18年度) 95.5%、 目標(25年度) 96.0%

(目標2) 健康の増進

・健康相談の利用者数

現状(18年度) 151人、 目標(25年度) 200人

・健康増進事業への参加者数

現状(18年度) 308人、 目標(25年度) 400人

(目標3) 教育の充実

・研修講座の実施回数

現状(18年度) 22回、 目標(25年度) 25回

・教職員研修会への参加者数

現状(18年度) 31人、 目標(25年度) 40人

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

本市では、市立病院の移転新築が決定した後、旧病院跡地の活用策について検討が重ねられ、平成17年度にワーキンググループによる「市立病院跡地利用計画(素案)」を策定し、活用策の概要をまとめた。さらに、平成18年度には、「市有地等活用策検討部会」において、この素案の考え方を基本としながら、計画の具体化を目指し、検討を進めてきた。

その結果、旧病院施設の南棟部分は再利用し、老人福祉センター機能、子育て支

援機能、健康教育機能、教育研修・研究機能を配置することとした。

また、南棟以外の病院施設は解体し、新病院建設用地の一部となった苫小牧市緑ヶ丘公園の面積及び機能の代替となる都市計画公園を整備し、病院建設に伴って縮小した都市の緑を確保していく。

各機能を配置することによるメリット

- ア 乳幼児健診、育児教室・相談等の事業は、これまで専用会場がなかったため、他の事業と競合し、限られた日程の中で事業を実施しなければならなかったが、当施設に専用会場を設置することによって、事業スケジュールが立案しやすくなり、利用者のニーズに合わせた事業展開や時間の設定が可能になる。
- イ 各種相談や事業に対する問合せは、これまで実施場所や担当機関が別々であったため、それぞれの所管が認知されにくかったが、当施設が設置されることにより、支援の拠点が明確になる。
- ウ 老人福祉、子育て、健康教育機能を同じ施設内に設置することにより、これまで世代ごとに実施していた事業を、多世代が利用できる各種支援事業として連携して行うことができる。
- エ 本市総合計画に位置づけられている教育研修センターの設置が実現することにより、教育に関する調査研究、教育相談及び教職員の研修内容が充実し、これまで懸案となっていた本市教育の課題を解決することができる。

## 5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

## 5 - 3 その他の事業

### 5 - 3 - 1 地域再生基本方針に基づく支援措置による取り組み

公共施設を転用する事業へのリニューアル債の措置（C0402）

支援措置の番号及び名称

【番 号】C0402

【名 称】公共施設を転用する事業へのリニューアル債の措置

支援措置を受けようとする者

苫小牧市

内容

旧病院施設を、次世代の育成支援施設と教育研修センター等の複合施設として再生するためには、大規模な改修が必要となる。

そこで、地域活性化事業が目的とする喫緊の政策課題（少子化対策、地域資源活用促進）の実現を図るための施設へ転用するものとして、地域再生計画に位置づけ、地域再生推進のために転用が必要であると認められる場合に

は、リニューアル債の措置が受けられることから、この支援措置を活用しようとするものである。

#### リニューアル事業の概要

対象事業費	1,030,000 千円（現在実施設計中）
改修事業の内容	各階利用計画 添付資料 8 のとおり 改修工事概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 壁・床は出来る限り現状利用</li> <li>・ 天井は全面張替え（トイレ回り除く）</li> <li>・ 照明設備等は全て取替え（トイレ回り除く）</li> <li>・ 暖房設備は給湯用を含めボイラー設置</li> <li>・ 給排水・衛生設備等は 1 階多目的トイレ以外は使用</li> <li>・ 汚物処理室改修、男女出入口等の改修</li> <li>・ 昇降機（エレベーター）取替え</li> <li>・ 耐震診断実施</li> </ul>
実施期間	平成 20 年度

#### 添付資料

- ・「リニューアル事業の概要がわかる資料」(添付資料 6)
- ・「旧苦小牧市立総合病院設計図（1 階～5 階）」(添付資料 7)
- ・「旧苦小牧市立総合病院利用計画設計図（1 階～5 階）」(添付資料 8)

### 5 - 3 - 2 地域再生基本方針に基づく支援措置によらない取り組み

#### (1) 次世代育成支援の推進

未来を担う子供の総合的な支援を推進するため、当施設を子育て支援事業の拠点施設として活用し、親子が自由に交流できる場の提供や育児支援などの事業展開、行政機関や地域の団体等が相互に連携したネットワークづくりなどに努める。

親子が自由に集い交流できる場の提供

育児に関する情報の提供

各種子育て講座の開催

子育て支援に係る機関や団体などと定期的に情報交換会を開催

#### (2) 老人福祉センター機能を活用した健康増進事業の充実

老人福祉センター機能を活用することにより、各種教養講座や同好会、健康相談、レクリエーション事業などを充実し、高齢者に対する健康増進事業の場として十分な活用を図る。

(3) 教育水準の維持向上を図るための機能の設置と活用

新しい教育実践の推進や課題の解決のためには、教師が自らの使命と役割を自覚し、課題を鋭敏に受け止め、柔軟かつ的確に対処していく姿勢が大切であり、あわせて専門的な知識や指導力を向上させるための研究・研修を通じた研鑽を一層重視していくことが大切であるため、下記機能の設置と活用を図る。

教職員の資質能力と指導力の向上を図る研修機能  
教育理念と実践に関する調査・研究機能  
課題解決に役立つ情報や資料の提供機能

6 計画期間

平成19年度から平成25年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

「4」に示す数値目標については、当施設の総合窓口となる「旧市立総合病院南棟改修推進会議」において、毎年度必要な調査を行い、達成状況の評価及び改善すべき事項の検討を行う。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし